

## 優秀賞

内田 華菜（うちだ はな） 第十小 3 年生

作品名：教えてくれた本

図 書：いちねんせいのいただきます！

わたしは「一年生のいただきます」という本を読みました。この本をえらんだのは、どうしてこのような題名なんだろうと、気になったからです。また、読み始めてすぐに、一年生のわたしの弟とそっくりな男の子が主人公だったので、ますますきょう味がわいてきました。

この本は、あっくんという野菜がきれいな男の子が、きゅう食をのこしてろうかに出ようとしたその時、ふしぎな場所にかわって、野菜の学校のじゅぎょうをいっしょにうけることになり、あっくんの気持ちにへんかがうまれてくるというお話です。

わたしがこの本を読んで、一番心にのこったところは、あっくんが、きゅう食をのこしたら野菜たちがかわいそうと、思ったところでした。りっぱなきゅう食になるために、一生けんめいべん強していた野菜たちが、のこされてしまうと、ごみばこ行きになってしまうとあっくんはしんじていました。わたしはこの部分を読んで、もしわたしがあっくんみたいに、きゅう食をのこしている子どもだったらぜったいにのこさないようにしなきゃと、決意したと思います。

この本は、大切なことをわたしたち子どもに教えてくれます。野菜は一生けんめい大きくなっておいしくなってそれを料理してくれる人がいて、わたしたちが食べることができます。のこさず食べると元気になるし、幸せな気持ちになります。しっかり食べることの大切さを教えてくれました。

わたしの一年生の弟も、あっくんと同じで野菜がきれいです。この本をいっしょに読んであげたいと思います。どんな食事が出ても弟がいつも幸せな気持ちで「いただきます」が言えるようになったらいいな、と思いました。

わたしは、野菜は好きだけど、これはいらないと、料理をえらんでいる時がありました。今日から、もっと「いただきます」に気持ちをこめて言って、何でも食べたいと思いました。